

鳥獣けものみち

なが しげ だい さく
長重大作さんの

ワイルドライフ

ある日、自分の畑でクマを目撃した大作さん。
怖いので、対策を考えることにしました。

あなたも
チェックしてみよう



呼ばないためには…

- 不要な果樹は伐採する、または実を落としてトタンを巻く
- 残渣（野菜くずなど）を処理する
- お供え物は片付ける

➔ほとんどの場合は食べ物が原因！
「でも畑はしたいし…」という方は、電気柵の検討を！

居つかせないためには…

- やぶや雑木を刈り払う
- 戸締りをしっかりする

➔動物の気持ちになればわかる！身を隠すことができる場所＝安心して長時間いることができる場所！

「やぶや雑木をきれいに片付けたいけれど、一人じゃ大変だなあ…」という方は、長岡市の補助金を使って、地域ぐるみで不要果樹の伐採や鳥獣緩衝帯の整備をしましょう。

出会わないためには…

- 朝や夕方の外出を避ける
- 音の出るものを身に着ける
- 出没情報をチェックする

➔出会いがしらは、人間も動物もお互いにびっくり！そこにいることを知らせることと、遠くから気付いて避けることが大事！



※今回はクマについて紹介しましたが、ほかの動物にも効果的です。

※今回ご紹介した対策をしても頻繁に出没する場合は、鳥獣被害対策課にご相談ください。その際も、「どのような動物か」、「どこから出没するのか」などがわかると有効ですので、情報がありましたらご提供ください。

招かれざる客、はなれザル。

- ①エサになるものを片付ける、近づかせないようにする。
- ②目を合わせず、不用意に近づかない。
- ③戸締りをしっかりする。

これらを守れば、一定の場所に居つくことはまれなので、あまり心配しなくていいと言われています。はなれザルを見かけた際には、十分に注意してください。

成長したオスのサルが、群れを出て単独で行動する様子を「はなれザル」と言います。



↑三島地域で目撃されたはなれザル

アライグマの恐怖！



皆さんは、アライグマにどんなイメージを持っていますか？某名作劇場アニメのように、可愛いイメージでしょうか？特定外来生物に指定されるアライグマは、繁殖力が高く、全国で農作物被害、家屋侵入、感染症の媒介、生態系への影響を引き起こしています。特にトウモロコシ、スイカ、ブドウなどの被害が深刻で、早期の対策が必要です。

長岡市内でアライグマを見かけたら、まずは鳥獣被害対策課へご連絡ください！

点検員、頑張ってます！ — 設置しただけでは終わらせないお仕事 —

鳥獣被害対策課では、今年度から「電気柵訪問点検員」という事業に取り組んでいます。専門家による5日間に渡る研修をみっちり受け、電気柵に関する知識とノウハウを叩きこまれた5人の点検員。電気柵の張ってある圃場を回り、黙々と点検作業をしています。地域の電気柵を点検して、より効果的に動物から農作物を守るため、日々活躍しています！実際に点検を行ってみたいの感想を伺いました。



Q 点検員に応募した動機は何ですか？

自分以外の圃場はどのような対策をしているのか見てみたかった、地域全体に電気柵を取り入れる手助けをしたかった、自分の知識や技術を高めたかった、鳥獣を見返したかった…などです。

Q 実際に作業をしてみて、気づいたことはありますか？

高さや柵線の張り方が間違っている柵、動物が入れるすき間のある柵、草がかかって漏電している柵、市が指定した仕様になっていない柵などが多くありました。

電圧が下がっている柵もあり、原因を探ることにやりがいを感じました。設置者に正しい設置方法を説明して、気づいてもらえた時が嬉しかったです。

また、設置者と話をすると、「電気柵を設置することが大変だ」という声をよく聞きました。また、「電気柵を張ろうと考えていた矢先に被害にあい、もっと早く設置しておけばよかった」という声も聞かれました。

サルやイノシシが電気柵を警戒するようになってきていると思います。今後は、効果の低い電気柵がねられることもあると思うので、気を付けてほしいですね。



Q 点検員というお仕事について

「電気柵を設置して終わり」にしないのが、点検員の役目だと思いました。農業という生きがいを守る有意義な仕事だと感じています。引き続き、電気柵が鳥獣対策に有効であることを広めていきたいと思っています。

Q 設置者の皆さんにアドバイスを…。

電圧を測る習慣をつけてほしいですね。また、電気柵の仕組みをわかった上で設置をしないと、効果の低いものができるてしまいます。市や県が実施している研修会などに積極的に参加して、正しい設置方法を知り、ご自身の電気柵をより有効なものにしてほしいです。



電気柵訪問点検員を見かけた際は、ぜひご協力をお願いします。



コラム

もしかしてカモシカ

時折、まちなかにひょこっと出没するニホンカモシカ。ニホンカモシカは国に指定された特別天然記念物で、捕獲をすることはできません。そのため、森や山へ帰るよう見守るしかないのです。幸い、こちらから刺激をしなければ、帰巢本能により大人しく元いた場所に帰っていきます。興味本位で近づかず、見守りましょう。しかし、好奇心が強く、警戒心も薄いため、人から逃げないこともしばしばあります。戸締り等をしっかりと、居座ることのないように注意してください。



長岡市HP
「特別天然記念物
ニホンカモシカを
見かけたら」

